

7/14 小、中、高校生の15名が漢検を受検しました



★「一学期が終わって」★
あつという間に一年の3分の1が終わり、夏休みに入りました。終業式が終わって通知表をもらった(3学期制)生徒の中には、通知表が5個上がった人、7個上がった人がいます。
そういう人たちは頭がいいから、勉強できるからそうなるのではそうなるではありません。日頃の取り組みの姿勢がいいからなのです。
そういう人たちは常に目標に向かって、ごまかさずに丁寧に努力を続けます。その努力の結果は必ず試験や通知表などに表れます。
塾の壁に「普通にやれ」という言葉が張られています。近年、その「普通に」ができない人が多く見受けられます。普通のこと、ごく当たり前だと思ってきたことができないのです。
きちんとあいさつをする、約束を守る、やらなければならぬことはやる、忘れ物をしない、何事に対しても一生懸命向き合う、昔から言われている、ごく当たり前のそれこそ「普通」のことです。
ところが、少し前にNHKで、近年分かった「発達障害」についての番組が放送されました。そこで取り上げられていたのは「発達障害」のある人は「普通」のことができないということでした。
頭が悪いわけでもないのに成績が上がらない、結果の出せない生徒はそうなのかなと・・・
しかし、塾生の場合は「発達障害」という病気などではなく単に「過保護」や「過干渉」な環境の中で、何も苦労をしないで育ってきたことが主な原因だと思われれます。
やらなければならぬことをやらずにいやなこと避けて通る、つらいことや苦手なことから逃げる、いつも楽な方を選択する。

7/22 から夏期講座



「30年後働けるのは人口の1割」こんなすごいことが言われています。
駒澤大学経済学部講師の井上智洋氏は、「雇用大崩壊が目の前に迫っている」と断言する。人間に匹敵する高度な知性を持つAIが近い将来、人間の仕事を奪い、失業者が続出するという予測である。
すでに米国では、AIがコールセンター係、経理係などの仕事を次々と奪い始めています。あと20年もすれば、「ドラえもん」のような人並みに振る舞えるAIが搭載された「汎用ロボット」が誕生している可能性があります。
井上氏は、これからは「価値判断」が重要になります。どうせなら、美術館に行ったり、読書をして時間を費やした方がいいと。
まずは、「普通」が出来なければ生きていけません。

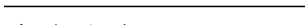
高校生の勉強風景



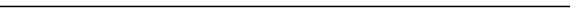
阿寒町から通ってる3年生の村形君が今日は自転車。景中3年の早川君が動物園から伴走!!



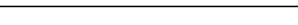
7/16 第32回釧路湿原全国車いすマラソン大会の様子。



茶道部2年生の牛木さん長尾さんに誘われて初めて湖陵の学校祭へ。帰りに3年生の佐藤さんと松井さんと玄関前で!



日ハムの試合を観てきた6期生の岩淵一家が帰りに寄った。



★「夏期講座」★
中1、2、3生には毎日、漢字・数学・英語・社会の宿題が出ています。講習会中に全部終わらせることになっていますので、毎日ていねいにやって下さい。もうすでに3年生の田中さん、2年生の福士太郎君、1年生の福士大陸君は全部終わっています。
夏休みは集中して勉強できる期間です。1学期の復習にしっかり取り組みましょう。
10日は1・2年生、11日は3年生の道コンがあります。筆記用具、コンパス、定規を忘れないこと、また昼食も必要です。なお、10、11日は塾に来て勉強することもできますので、来れる人、来なければならぬ人はどうぞ。(午前9時～午後4時の間)

在籍する生徒の所属校
小学校 愛国・鳥取西・朝陽附属・富原
中学校 美原・共栄・景雲・鳥取西・阿寒・鶴居・附属・北富原・遠矢
高校 湖陵・江南・北陽・高専・武修館

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火
				●休塾						●休塾				●通常授業開始	●お盆休み				夏期講座(9時~18時)	学力コンクール3年	学力コンクール1・2年			夏期講座(9時~18時)	●休塾	夏期講座(9時~15時)			夏期講座(9時~18時)	高専期末5日

携帯電話の
持ち込み禁止
連絡は塾の電話を使用
して下さい。

夏は
勉強の
季節
だ!

8月の予定

宿題「計画立てた」中学生3割

もうすぐ夏休み。普段できない体験に取り組む機会だが、日々の学習リズムが崩れる恐れもある。学習塾「明光義塾」の調査では、昨年の夏休みの宿題に「計画を立て取り組んだ」という中学生は3割程度。半数以上が「気が向いたとき」「終了間近」と答え、計画的な取り組みができなかったと振り返る。

1日の平均勉強時間は「30分～1時間」が最多。5人に1人が「30分未満」や「全くしない」と回答するなど、学習から離れてしまう子供も多い。

調査は6月下旬、中学2、3年生の子供がいる全国の保護者558人を対象に実施。同塾の担当者は「子供任せとせず、親も勉強の時間や計画と一緒に確認する必要がある」と話す。

つ・む・ぎ N E W S 07.14



夏休み過ごし方、笑顔で新学期へ

——家にこもらず行事参加を、合宿でスマホ依存克服も

子供が待ちに待った夏休みシーズン。普段できない体験をするチャンスだが、生活リズムや交友関係が乱れ、不登校やスマートフォン（スマホ）依存につながりやすい時期でもある。一方で、既につまずいた子供にとっては立ち直りのきっかけをつかめる可能性もある。長い休みをどのように過ごすべきか、各地のNPOなどの取り組みを探った。

7月上旬、NPO法人「東京シューレ」が運営する東京シューレ葛飾中学（東京・葛飾）。不登校の子供をもつ各地の保護者ら約100人に対し、学校スタッフが夏休みの過ごし方を助言した。

「子供を一人にせず、様々な行事に積極的に参加したほうがいい」「休み明けに子供の自殺が増えるという調査結果もある。我が子の様子に変化がないか、よく見守って」。スタッフの言葉に保護者は表情を引き締めた。

会社員や自営業者の20～30代の男女4人も、自分が不登校だったころの経験を語った。「学校から長期間離れると、再び登校する時に大きな負担を感じる」「無理に登校させず、まずは悩みを聞いてほしい」。不登校を繰り返す中学生の息子がいる母親（42）は「休み中の過ごし方について、とても参考になった」と話した。

東京シューレは7～8月、美術館見学や離島合宿などのイベントを開催し、子供が学校以外に同年代の友達をつくるよう促す。8月には子供向けの電話相談窓口を開設。「学校に行きたくない」「新学期が不安」といった悩みを聞く。

奥地圭子代表は「不登校やその手前の子供にとって、夏休み明けは一年で最も負担になる時期」と指摘。「保護者が無理なく子供を送り出せるよう最大限サポートしたい」と話す。

一方で既に不登校になっている子供にとっては、学校に復帰するチャンスだ。集団生活への抵抗感を弱めようと、休み中に多くの子供を集めて交流する取り組みもある。

NPO法人「登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク」（東京・北）は8月26～27日、早稲田大戸山キャンパス（東京・新宿）で、不登校児やフリースクールの生徒の交流会を開く。全国から100人近い子供が参加する予定で、スポーツや音楽会、テレビゲームなどをする。

自分と同じように悩んでいる大勢の子供と触れあい、人付き合いに慣れてもらうのが狙い。20年以上前から夏休みの終盤に開催しており、参加した子供から「学校に戻る自信がついた」との声が上がるという。

長い休みを利用して、深刻化するスマホ依存を克服する取り組みもある。

兵庫県などは8月中旬、スマホ依存に悩む小学生～高校生を対象に、インターネットから離れる合宿を開く。依存症に詳しい医療関係者が、瀬戸内海の島での4泊5日のプログラムを監修。スマホは毎日1時間までで、それ以外の時間はスポーツや料理などを通して約20人の参加者が交流する。

夜は1日の生活を振り返り、どんなときにスマホを使いたくなったか参加者同士で話し合う。必要性が薄いのにもスマホを使っていたこれまでの生活を振り返ることで、依存状態だったことを自覚させるのが狙いだ。

昨年も同様の合宿を行った。多い日は1日14時間以上ネットを利用していたという女子高校生は、合宿を機にネット利用が大幅に減り、アルバイトを始めた。1日12時間もネットをしていた男子中学生は「(合宿後は)1日1時間しかしない」と宣言したという。

この合宿は文部科学省が進めるネット依存症対策の一環。秋田、大分県などでも夏休み中に同様の合宿を行うという。

休み明け 子供に強い重圧 変わった様子ないか注意を

夏休み明けは子供の心に強いプレッシャーがかかる。専門家は「休みの終盤は、子供の様子に変わりがないかよく注意してほしい」と呼び掛ける。

内閣府の自殺対策白書によると、1972～2013年に自殺した18歳以下の子供は計1万8048人。日別の平均は50人だが、最多の9月1日は131人と突出する。9月2日（94人）、8月31日（92人）など、この時期に集中している。

田原俊司・玉川大教授（教育心理学）は「学校で人間関係に悩む子供は、休み中に他の子と交流を絶ち、昼夜逆転の生活を送りがち。こうした過ごし方を続け、学校に戻れなくなる例が多い」と話す。

田原教授は防止策として（1）生活リズムを乱さない（2）同世代と関わる（3）家にこもらない（4）日中に体を動かす——を挙げる。「休み中や登校前の子供の様子に注意し、無理なく学校に戻れるよう気を配ってほしい」と呼びかけている。

つ・む・ぎ N E W S 07.26



ローソン、「ひとり親家庭支援奨学金制度」を設立

返還不要の奨学金でひとり親家庭の生徒さんの夢を支援 7月1日より募金受付を開始

株式会社ローソンは、ひとり親（母子等）家庭で就学が困難な生徒さんの夢を応援する「ひとり親家庭支援奨学金制度」を設立し、7月1日（土）より店頭募金の「マチの幸せ」募金で受付を開始します。この奨学金制度は返還不要で最長4年間、一人につき月額30,000円が支給される予定です。

1. 「ひとり親家庭支援奨学金制度」設立の経緯

「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」という企業理念のもと、店頭募金の「マチの幸せ」募金として、緑化事業を支援する「ローソン緑の募金」、子どもたちへの支援を行う「夢を応援基金」と「TOMODACHI募金」を実施しています。「夢を応援基金」は、東日本大震災で被災された東北3県（岩手・宮城・福島）の生徒さんたち（約1,000名）への奨学金の支給とサポートプログラムでの支援を目的として2011年に創設されました。2017年3月末時点で約880名が卒業し、当基金の目的達成の目途が立ったため、新たに「ひとり親家庭支援奨学金制度」を設立することになりました。ひとり親（母子等）家庭の子どもたちが「進学したい」という夢をあきらめずにすむよう、就学支援を目的とした「夢を応援基金」の中に、「ひとり親家庭支援奨学金制度」を追加します。従来の「夢を応援基金」（東日本大震災奨学金制度）は、2019年3月まで継続します。

2. 「ひとり親家庭支援奨学金制度」の概要

■対象者：日本全国47都道府県にお住いの、下記のどちらかに当てはまる生徒さん

- 1) 中学校3年生の生徒さん
- 2) 高等学校、高等専門学校、専修学校高等課程、特別支援学校（高等部）1～3年生の生徒さん

■奨学金：

1人につき月額30,000円を給付（返還不要）

■支援人数：

各学年100名の合計400名（予定）

※次年度以降、卒業生数に合わせ追加募集を予定。■運営団体

（寄付先）：一般財団法人 全国母子寡婦福祉団体協議会（全母子協）

■応募資格：

下記の全ての条件を満たす生徒さん

- ・ひとり親（母子等）家庭の生徒で就学が経済的に困難な生徒
- ・夢を実現するための意欲があり、社会への貢献を希望する生徒
- ・全母子協の加盟団体の会員、及び入会を希望する方のお子さん（生徒）
- ・全母子協加盟団体代表者等の推薦を受けられる就学中の生徒

■運営資金：

店頭募金及び株式会社ローソンの拠出金、取引先様からの寄付等で運営します
店頭募金箱への募金の他、店頭マルチメディア情報端末「Loppi」での募金や、Pontaポイント・dポイントを活用した募金を受け付ける予定です。

（Loppiとポイントの募金開始時期は別途ご案内いたします）

3. 「ひとり親家庭支援奨学金制度」の応募について

■募集：2017年7月中旬以降

■応募の流れ：

全母子協加盟の各都道府県・指定都市・中核市の地方母子団体にお問い合わせください。福島県と高知県にお住いの方については、全母子協にお問い合わせをお願いいたします。

各地方団体の連絡先は下記ホームページをご覧ください⇒ <http://zenbo.org/>